

平成31年度／令和元年度 事業報告書

- 1 育英学院概要
- 2 育英学院事業報告書
- 3 育英学院財政の概要

学校法人 育英学院

1. 育英学院概要

(1)基本情報

- ①法人の名称 学校法人 育英学院
- ②主たる事務所 住所 194-0215 東京都町田市小山ヶ丘四丁目6番8号
 電話 042-775-3020 FAX 042-775-3023
 ホームページ http://www.salesio-sp.ac.jp/main/about_us/ikueigakuin.html

(2)建学の精神

この法人は、教育基本法及び学校教育法に従いつつ、カトリックの教育精神及び設立母体であるカトリック・サレジオ修道会の創立者ヨハネ・ボスコの教育理念に基づく学校教育を行い、社会に有為な人材を育成することを目的とする。

【学校法人育英学院寄附行為 第3条】

(3)学校法人の沿革

昭和 8年	学校設立準備、学校設立代表者ヴィンセンシオ・チマツチ
9年	東京育英工芸学校を創設、乙種工業学校として印刷科を設置
10年 4月 1日	学校開設
13年 4月	木材工芸科を新設
15年 2月22日	財団法人組織とし、帝都育英学院と称する
17年 3月	甲種工業学校に昇格、帝都育英工業学校と改称
22年 4月	学制改革により帝都育英中学校を併設
23年 3月	学制改革により帝都育英工業高等学校と改称
24年 4月	電気科を新設
26年 2月26日	学校法人組織となり「学校法人 帝都育英学院」と改称
34年 9月10日	カトリック・サレジオ修道会より目黒サレジオ幼稚園（昭和24年3月30日開設）を移管される
34年 9月10日	目黒サレジオ中学校を設置する
35年 3月12日	帝都育英中学校、帝都育英工業高等学校の校名を「育英中学校」ならびに「育英工業高等学校」と改称
37年 12月15日	育英高等専門学校を設立する（既設学科：印刷工学科、電気工学科、工業意匠学科）
38年 4月26日	サレジオ高等学校を設置する（全日制：普通科）
38年 10月 3日	学校法人名「学校法人 育英学院」と改称
38年 10月 3日	学校法人東京サレジオ学園を吸収合併する （サレジオ小学校：昭和22年4月1日設立、サレジオ中学校：昭和23年3月14日設立）
40年 3月 1日	育英工業高等学校を廃校する
42年 3月13日	足立サレジオ幼稚園を設置する 育英高等専門学校を「育英工業高等専門学校」と改称、 工業意匠学科を「工業デザイン学科」に改称する
43年 3月30日	川崎サレジオ幼稚園を設置する
50年 1月30日	川崎サレジオ中学校を設置する 印刷工学科を「グラフィック工学科」と改称する
51年 2月23日	目黒サレジオ中学校を廃校する
58年 4月 1日	サレジオ高等学校、川崎サレジオ中学校、川崎サレジオ幼稚園を「育英学院」より法人分離 （新設法人名「学校法人サレジオ学院」と称する）
62年 12月23日	電気工学科収容定員450人から675人に変更認可
62年 12月23日	グラフィック工学科450人から225人に変更認可
63年 4月 1日	情報教育センター設置、男女共学の実施
平成 元年 4月 1日	電子工学科、情報工学科を開設する 定員各45人
2年 3月22日	育英中学校を廃校する
平成 5年 3月31日	女子第1期生卒業
6年 4月 1日	1年生混成学級編成 研究生第1期生入学 グラフィック工学科
7年 4月 1日	1・2年混成学級編成 研究生第2期生入学 工業デザイン学科
9年 2月12日	グラフィック工学科をビジュアル情報工学科に、工業デザイン学科をデザイン工学科に学科名改称する
10年 4月 1日	サレジオ文化技術交流センター（SITEC）での教育活動を開始する
13年 2月15日	専攻科生産システム工学専攻設置認可

14年 3月11日	育英工業高等専門学校のキャンパスを多摩ニュータウン町田グランネットタウン小山地区（京王線：多摩境駅）に移転する計画を決定し準備に入る。
17年 3月31日	東京都町田市小山ヶ丘4-6-8に育英工業高等専門学校キャンパス移転完了 ビジュアル情報工学科第38期生卒業 同学科閉科
17年 4月 1日	「育英工業高等専門学校」の校名を「サレジオ工業高等専門学校」に改称する。
17年 4月 1日	サレジオ工業高等専門学校町田キャンパス開所
17年 5月13日	サレジオ工業高等専門学校新校舎落成式
19年 5月29日	ビジュアル情報工学科廃止届。
19年 5月29日	電子工学科の名称を機械電子工学科に改める。
21年 4月 1日	デザイン工学科の名称をデザイン学科に改める。
27年 4月 1日	町田サレジオ幼稚園を設置する（平成27年3月31日認可）

(4)設置する学校・学科

令和元年5月1日現在

学校及び学科名	設置年月日	校長・園長名	住 所	電話・FAX
サレジオ工業高等専門学校	昭37.12.15	小島 知博	東京都町田市小山ヶ丘四丁目6番8号	TEL 042-775-3020 FAX 042-775-3021
デザイン学科	昭37.12.15			
電気工学科	昭37.12.15			
機械電子工学科	平元.12.22			
情報工学科	平元.12.22			
専攻科 生産システム専攻	平13.2.15			
サレジオ中学校	昭23.3.24	北川 純二	東京都小平市上水南町四丁目7番1号	TEL 042-321-0312 FAX 042-321-0776
サレジオ小学校	昭22.3.29			
目黒サレジオ幼稚園	昭24.8.30	三島 心	東京都目黒区碑文谷一丁目26番24号	TEL 03-3714-2531
足立サレジオ幼稚園	昭42.3.13	野口 重光	東京都足立区江北三丁目40番27号	TEL 03-3899-4497
町田サレジオ幼稚園	平27.4.1	松永 伸子	東京都町田市小山ヶ丘四丁目6番2号	TEL 042-775-3120

(5)学校・学科等の学生・生徒・児童・園児の現況

令和元年5月1日現在

学校・幼稚園名		入学定員	入学者数	収容定員	現員数
サレジオ工業高等専門学校	専攻科	14	11	28	21
	デザイン学科	45	37	225	181
	電気工学科	45	25	225	177
	機械電子工学科	45	48	225	245
	情報工学科	45	47	225	235
サレジオ中学校		30	24	90	68
サレジオ小学校		30	19	180	113
目黒サレジオ幼稚園		160	121	450	355
足立サレジオ幼稚園		30	21	240	67
町田サレジオ幼稚園		60	28	180	76

(6)収容定員充足率

(毎年度5月1日現在)

学校名	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
サレジオ工業高等専門学校	94.2%	98.0%	97.2%	100%	93.1%

※本科のみ

(7)役員の概要

定員数

理事：6人以上8人以内 監事：2人【学校法人育英学院寄附行為 第5条】令和元年5月1日現在

役員区分	氏名	常勤・非常勤	主な現職等
功労者	並木 豊勝	非常勤	育英学院理事長
学院長 高専校長	小島 知博	常勤	育英学院学院長 サレジオ工業高等専門学校長
中学校長	北川 純二	常勤	サレジオ中学校長 サレジオ小学校長
評議員互選	三島 心	常勤	目黒サレジオ幼稚園長
評議員互選	木戸 能史	常勤	常務理事
評議員互選	小島 勉	常勤	常務理事
功労者	木村 彰男	非常勤	外部理事
功労者	米本 光男	非常勤	外部理事
監事	長谷川 純也	非常勤	(学)サレジオ学院理事
監事	渡辺 新	非常勤	税理士

(8)評議員の概要

定員数：18人

【学校法人育英学院寄附行為 第19条】令和元年5月1日現在

評議員区分	氏名	評議員区分	氏名
高専校長	小島 知博	同窓生	桂嶋 博明
小学校長	北川 純二	同窓生	河村 英和
幼稚園長	三島 心	理事互選	並木 豊勝
幼稚園長	野口 重光	理事互選	米本 光男
幼稚園長	松永 伸子	保護者	関根 優司
教職員	横山 松生	保護者	向谷 亮
教職員	濱邊 正	学識経験	濱口 秀昭
教職員	森 幸男	学識経験	木戸 能史
教職員	高橋 孝	学識経験	小島 勉

(9)教職員の概要

令和元年5月1日現在

学校名	職名 校長 園長	教授	准教授	講師 教諭	助教 助手	非常勤 講師	事務 職員	非常勤 職員	合計
法人本部	人	人	人	人	人	人	3 人	人	3 人
サレジオ工業 高等専門学校	1	16	22	8	6	51	22	16	142
サレジオ中学校	1			9		1		1	12
サレジオ小学校	(1)			9		4	1		14
目黒サレジオ幼稚園	1			21		3	6	10	41
足立サレジオ幼稚園	1			6		3		3	13
町田サレジオ幼稚園	1			5		8	2	3	19
計	5	16	22	58	6	70	34	33	244

(10)その他

『学校法人育英学院寄附行為』は

http://www.salesio-sp.ac.jp/main/pdf/about_us/ikueigakuin/donation-20200401.pdf を参照。

2. 育英学院事業報告書

① 理事長・理事会

I. 事業計画

1. 常務理事中心のワーキンググループ設置

近年の社会状況は急速なスピードで変化している。本学院も社会状況に対応できるように課題や重要ポイントを洗い出すため、常務理事を中心メンバーとしてワーキンググループを設置した。

このワーキンググループでは今年度は特に以下の点について重点的に取り組んだ。

- (1) 育英学院設置の学校・幼稚園において定員充足に向けての施策の検討は町田サレジオ幼稚園経営会議を通して実施した。
- (2) 育英学院全体の財政黒字化の施策の検討については実施できなかったため、継続して取り組んでいくこととなった。
- (3) 育英学院で直面している課題・問題の洗い出しを行ってきたが、継続していくことになった。
- (4) その他、育英学院全体をより活性化するための施策の検討については具体的な取り組みには至らなかったため、次年度以降継続して取り組む。

ワーキンググループで取り扱ったことは理事会の際に報告を行った。

② 法人本部

I. 事業計画

一般の方針

1. 内部監査のチーム編成と強化、監事との連携を図る

ここ数年、内部監査と監事監査を同時期に行い、進行年度の運営状況等のチェックを行っている。今年度も引き続き、内部監査と監事監査を同時期に実施することで連携を図り、より一層強固なチェック体制を設ける。また一昨年度の文科省の調査時の指導を受けて、実施前に監査計画を作成することを継続する。内部監査については新たな方向性を探っていく。会計の監査のみならず、経営面や運営面の観点からの監査を模索する。

⇒監事監査について、現地でヒアリングを中心に実施した。内部監査について、監事監査と併せて行い連携を図ったが、来年度以降、より充実したものになるよう改善していくことを検討する。

2. 規則・規程の見直しと改正を引き続き行う

規則・規程は運営上、必要なものであるが、時代の流れに併せて、改正することが必須である。昨今実施してきているが、今年度も引き続き、昨年度未達であった規則・規程を全面的に見直し、必要に応じて改正を実施するように努力する。また必要に応じ、吟味した上で、新たに規程を制定することも検討する。

⇒稟議書について検討を行ったが、改定するまでに至っていない。実情に合わせた規定運用ができるように継続して改定できるように継続していく。

3. 法人本部業務の強化のために

法人内の事務経理のみならず様々な事務分野での技術力を高めるため、また最近の社会状況に乗り遅れることのないように法人部職員を研修会に積極的に参加するように促す。また研修会で得た情報を必要に応じて各学校の事務職員へと伝達する。

あわせて、法人本部職員間、そして各学校・幼稚園との連携を強化することをつとめる。

⇒私学共済事務研修会・私学事業団会計研修会・パソコン研修会等、法人本部業務に必要なスキルアップのために参加することができた。新型コロナウイルス感染症の影響もあり、年度末に予定していた研修会等が全て中止となった。

法人本部強化のために経費の不足が見込まれる。そのため、本部負担金の値上げを検討する。平成30年度は業務補助の多いサレジオ工業高等専門学校の本部負担金学生単価を15,000円から18,000円へと値上げした。今年度はサレジオ工業高等専門学校以外の学校についても生徒・児童・園児の本部費単価を15,000円から16,000円にあげる。最終的には高専と同額である18,000円まで値上げする。

⇒当初の予定より早く、全学種で本部負担金学生単価を18,000円とした。中期計画で今後の本部負担金の値上げをさらに検討していく。

4. 人件費

(1) 役員報酬及び理事長報酬は前年度と同じ処遇とする。

(2) 事務担当職員の賞与は、サレジオ工業高等専門学校の月数を参考とすることにする。

⇒上記目標通り、実施した。

具体的事業計画

1. 目黒サレジオ幼稚園の建替に係る支援

目黒サレジオ幼稚園は老朽化により建替が必要な状況であるが、オリンピックの直前もあり、建築費がかさむことが明確である。昨年度までは遅々として進まなかったが、今年度は目黒サレジオ幼稚園と常務理事および法人本部とプロジェクトチームを立ち上げ、具体的に進めていく。

⇒建て替え後の幼稚園の方針や規模について、ワーキンググループの中で検討を重ねた。今後も継続して行う。

2. 法人本部での金庫購入

法人本部で取り扱う文書において取り扱いの気をつけるべき文書が増えてきている。現在の金庫では小さくなってきているため、金庫の購入を検討する。

管理用機器備品（資産）予算：500,000円

⇒未実施なので今後継続して検討する。

③ サレジオ工業高等専門学校

令和元年度 教育研究計画の概要

校長目標は「選ばれるサレジオ高専」を強く意識し、本校の価値や魅力を向上させることを目的とした。

令和元年度重点施策

(1) 教育・研究力の強化（魅力的な学生を育てる）

<1> 教職員によるアシステンツァの実践強化

学生や保護者との関わり方を学ぶ機会を設けた。退学者減少の目標とも関連してこれまで以上に電話で対応する回数を教員は増やした。メールのやりとりで問題解決に時間をとられていた状況が少しは改善され、直接、電話で保護者と話をすることに抵抗があった教員も少しずつ慣れたようであった。メールでのトラブルを減少することができた。

<2> 教育・研究環境の推進

2020年度から学修単位の導入を目指し、準備をした。

<3> 退学者の減少

退学者の数を減少できたが、さらなる努力が必要である。2020年度も継続して取り組む。

<4> 教育の質保証と向上

第9期中央教育審議会の将来構想部会が各校に求めている内部質保証システムの確立のために動いた。まだ完成に至っていないうえに、次年度は自己点検評価報告書の作成があるため、さらに継続して内部質保証システムの確立を進める。

(2) 社会貢献力の強化（信頼を集める学校）

<1> 地域社会との連携

新入生獲得のための募集活動の一環として小中学校から特別授業の依頼を受けると教員を派遣した。また中学校の美術教員との協力体制づくりの強化を行った。地元広報誌（アレサ）制作による町田市小山地区の町内会、商栄会、商工会議所との交流活動や八王子の「いちょう塾」の講座を継続し、相模原市・座間市の主催する市民大学の講座へも協力した。「サレジオ高専地域交流協議会」との連携でオリンピック・ロードレースマップを町田市の依頼で作成した。

<2> 産学連携の推進

大学コンソーシアムに多数の学生を参加させて、研究発表などで優秀賞をはじめとして各賞を多数いただき、サレジオ高専の存在感を示す場となった。研究活動やインターンシップなどで八王子市以外の市に対する地域交流をさらに積極的に推進し、地域に立地する企業や自治体との交流・連携を進めた。

<3> 学校広報の推進

本校のイメージアップのためにリニューアルしたホームページを更新して有用性を広げ、新しい情報が発信できる環境を整えて、コンテンツの充実を図った。またウェブネットワークを通じて企業や地域社会だけでなく卒業生とも広くコミュニケーションを図った。昨年度はロボコンの地区予選の担当校になっていましたので、イベントを利用して本校のことを広く伝えるよう工夫した。

(3) 経営力の強化（継続的に発展する学校になる）

<1> 学部評価への対応

専攻科レビューをはじめ認証評価、JABEEなどの外部評価への対応をもっと柔軟に行うために未来戦略総合本部を立ち上げて、他部署との連携を活性化に取り組んだ。

<2> 教職員の業務遂行能力の向上

SD (Staff Development) システムの運用を目指した。各部署での業務の質向上、必要とされる能力の開発、向上のための動きを展開した。

<3> 受験者数の増加

令和元年度生募集では194名の入学者になった。定員確保をすることができた。2020年度は15歳人口の減少問題に加えてコロナによる不況の問題があるなど、例年のない困難がある中で、しっかりと定員確保のためにさまざまな工夫と努力を各学科が実行し、180名定員獲得のチャレンジを行う。

<4> 一般補助金ならびに特別補助金への対策

昨年、経常費補助金の配分見直しが行われ、各校における定員充足の状況や経営・財務情報の公開や特別補助の審査方式の見直し、また一般補助における教育の質に係る客観的指数の導入などによって配分が決定するというこで、補助金をきちんと受ける環境を整えた。

<5> 財務計画

本校は修繕費を含む内部留保資産の積み上げが薄いために毎年5000万円の積み上げを目標にしていたが、昨年度は予算の資金収支差額をプラスにしたために、積み上げを行えなかった。今年度は弾力的な資金運用と無駄の削減にこれまで以上に意識的に取り組み、来年度は内部留保資金を確保する。

(4) 特記事項：サレジオミッションの実践

<1> 司牧目標

サレジオ会の指導方針である「ドン・ボスコの生き方にならい、神さまの呼びかけに応じて生きよう」の精神を本高専の教育目標に照らしつつ実現することを目標とし、特に「神からの呼びかけに気づいて、応える」ことをどのように伝えるか工夫をした。

- ・月2回の院長講話を教職員朝礼で実施した
- ・月例ミサを実施した
- ・掲示板の活用による聖書やドン・ボスコのことばの紹介をした

④ サレジオ小学校・中学校

I. 令和元年度教育目標

サレジオ家族ストレンナによって、“聖なる人になろう” —わたしの喜びがあなたがたの内にあるように—（ヨハネ福音書 15：11）をテーマとした。

感謝と喜びをもって、素直に、という目標であったが、もっと具体的な目標であった方がよかった。日常的に、児童生徒には、具体的な言葉で話をしてきた。

結果のようなことが現れるのは、今すぐではなく、何年もたってからのことであることを確認しながら、日々の活動にあたるのみである。

II. 令和元年度重点課題

個々の教員がそれぞれ培ってきた経験を踏まえ、その上に現在多方面から求められている動き（危機管理、いじめ防止対策、働き方改革、新指導要領など）に迅速で柔軟な対応をしていくために、研修や会議を通して対策をたて、教員間の意思疎通を図る。

1. 安全で、安心できる学校であるために

学校危機管理マニュアルの再点検と周知徹底を始業職員会議、避難訓練の折に点検した。施設・設備の更新や修繕は全館のエアコン更新が終了した。広場の柵、各所の床、建てつけなどの修理を実施した。また、いじめ防止対策についての研修を2度実施した。

2. 教職員と保護者との信頼関係をどのように築き、深めていくか。保護者対応についての研修を行った。

III. 児童生徒募集

在籍数（令和2年3月31日現在）

小学校	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	合計
31年度生徒数	19	16	22	18	20	18	113
転入者	1		1				2
転出者	1		1				2
中学校	1年生	2年生	3年生				合計
31年度生徒数	24	24	22				70
転入者	1	2					3
転出者	1	1	1				3

募集活動

小学校

学校説明会：5月17日（土）33組（前年度30組）、9月18日（水）35組（前年度30組）

受験サイト内広告（3月～12月）、

読売新聞・朝日新聞・らんたろう新聞に広告（5月）

中央線沿線私立小学校合同相談会（2月）

小金井市、育児冊子に広告（3月）

中学校

学校説明会：6月29日（土）12組、10月5日（土）18組、12月14日（土）31組

東京都私立中高連盟第11支部合同相談会（5月）、東京都私立学校合同相談会（8月）

多摩スクールメッセージ広告

小学校中学校共通

西武バス広告（小平営業所）

小教区やミッション系幼稚園・保育園・小学校への働きかけを促進する。

IV. 宗教司牧部

1. マリア祭、マリア様への手紙焼き、プール開き、慰霊祭、クリスマスの集い、ドン・ボスコミサ、灰の式
2. 年2回の練成会、ミニ巡礼、クリスマス聖劇、老人ホーム訪問

V. 主な工事

1. 平成30年度・31年度 空調設備・ボイラーの更新
半額を東京都私学財団の補助金で賄った
2. 家庭科室ガスコンロ更新
3. プール塗装工事

VI. その他

1. スクール・カウンセラー、スクール・ソーシャルワーカーを正式に置き、様々な相談や問題解決に向けて利用は多かった。
2. ネット・携帯講座（児童生徒・保護者対象）
3. 東京都私立小中学校就学支援金申請。
4. 避難訓練 年3回実施
5. 小学校：それぞれ2学年ずつまとめたのキャンプを実施。
中学校：中1・2、宿泊訓練を実施。
6. 月1回の保護者バイブルクラス
7. 教育実習：小学校2名、中学校1名実施。
8. 司牧部：部会毎月実施、宗教行事などを管轄。
9. 中学校鑑賞教室（音楽）：卒業生に依頼→音大のグループで弦楽器
10. 中学校鑑賞教室（劇団四季「キャッツ」）
11. 中学バレー部全国大会ベスト4
12. 11月25日教皇ミサ（場所：東京ドーム）希望者27名が参列
13. 小学生向けのバイブルクラスを月1回実施。
14. 中学生の老人ホーム訪問は、コロナのため中止。

15. イエスのカリタス会の下崎シスターに南スーダンについて児童・生徒にお話をしてもらった。
16. これまでパソコンメンテナンスをしていただいていた卒業生（サレジオ中学校、育英高専）が体調不良のため、退かれた。後任（個人？業者？）がまだ決まっていない。
17. 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、小学校・中学校ともに、2020年2月28日より、臨時休校措置をとった。当初は、3月6日までの予定であったが、2020年5月15日現在も休校措置を継続中。
18. 小中ともに音楽会が中止になり、卒業式は縮小して行われた。

⑤ 目黒サレジオ幼稚園

サレジオ家族 年間目標 (Strenna 2019)

「Holiness for you, too So that my joy may be in you」

～ 聖なる者になろう、私の喜びがあなたがたの内にあるように ～

I. 教育方針

【園のことば】 きよいところ げんきなこども

(1) 教育目標

創立者ドン・ボスコの教育理念である「宗教」「理性」「慈愛」を根本にして、家庭と密接に協力しながら明るく暖かい雰囲気づくりを目指す。

又、幼児自身が愛されている体験を通して自ら神と人を愛する心、豊かな品性と国際的素養を身に付け円満な人格形成を目指し明るい社会人になるように育成する。

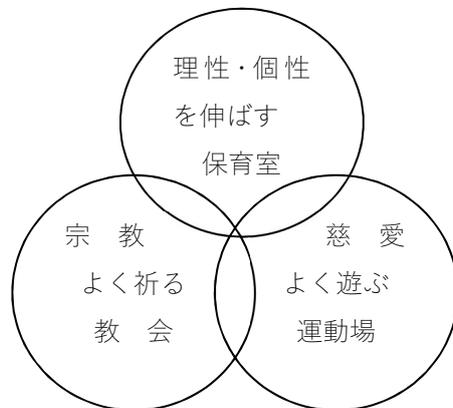
【年間努力目標】 思いやりの心をもつ 何事にも意欲的に取り組む

=学年のねらい=

- | | | |
|-------|-------|--|
| <すみれ> | (3歳児) | 様々な環境に慣れ、園生活を楽しむ。 |
| <ゆり> | (4歳児) | 集団生活に必要な態度を身に付ける。
互いの気持ちを伝え合いながら友達と関わる。 |
| <ばら> | (5歳児) | 状況の判断力を養う。感謝と思いやりの心を育む |

(2) 聖ドン・ボスコの教育の要約

子どもを教育するには、しっかり組み合わせた 輪のような3つの場所が必要である。



----- 具体的に聖ドン・ボスコの教育における宗教教育を実践するために

以下のようなことに取り組んでいます。

- ① 日常の中での祈り、神父による宗教の時間
- ② 行事の中で：聖母祭、クリスマス会、創立者、聖ヨハネ・ボスコのお祝いなど
- ③ 保護者の希望者に向けて月2回聖書と祈りの集い、さらに公教要理のクラスを開設している。

今年度も引き続きシスター大澤の要理を行う。

(3) 教師のあり方

1. 園の教育理念を深め、共通理解のもとに保育に取り組む。
2. 一人一人の園児に積極的に関わり、子どもの状況をよく把握する。
3. 子どもたちがのびのびと活躍できるような環境の設定を心がける。
4. 思いやりの心とけじめのある態度を、教師自らが手本となって示す。
5. 職員・園児・父母の相互間の報告、連絡、相談を密にし、常に反省する姿勢を持つ。
6. 月1回、サレジオ会司祭から宗教教育についての研修を受け、カトリックの精神を身に付ける。
(2019年度は、不定期で関谷神父様を予定)

(4) 家庭

1. 年頭に、教育理念を全父母に伝える。
2. 家庭教育・幼稚園教育の大切さを理解して頂くよう、機会ある毎にお願いする。
(家庭と幼稚園の教育観の一致、協力を願う。ー公共ルールや、躰などー)
3. 親自身が子どものお手本になるよう心掛けていただく。

(5) 運営・経営の時代のニーズへの対応

子育て支援の強化

1. 保育時間・預かり保育時間の延長等

平成30年度より、各学年保育時間を30分延長した。保育者も、充実した保育が出来たと振り返りをした。また、平成29年度より預かり保育時間を最長18時までとしたが、以前より17~18時まで預ける保護者が増え、子育て支援に繋がっていると感じる。預かり保育場所の都合などもあるが、可能な限り預かり保育日数も増やしている。

→従来、預かりを行わなかった行事の日なども預かりを行う日を増やした。

2. 就労している保護者も多い中、行事での保護者お手伝いなどの負担を軽減する為、アンケートを行い、できる限り改善していく。

→3学期に、在園の保護者に向けてインターネットでのアンケートを実施した。教育、子育て支援、設備など様々な意見を頂くことができたので、今後の保育の在り方、運営などを考える上で貴重な意見とする。

少子化・幼児教育無償化への対応

1. 2019年10月より始まる無償化で、保護者の幼児教育への選択肢が広がる。その中で当園が選ばれて、10年、20年後にどのような存在になっているのかを考え、教育方針、教職員の意識、ニーズへの敏感な対応が望まれる。

→子育て支援としての預かり保育のニーズが質量ともに高まっていることを感じながら、対応に苦慮する一年となった。今後も検討を継続していく。

2. 今年度は、春から始まる募集活動、入園面接などについて、早い段階で話し合いを持ち、より良い募集活動につなげていきたい。

→募集活動は例年よりも早くから意識的に取り組んだ。しかし結果として十分な募集につながらなかった。

施設設備関係

1. 施設の老朽化が加速し、安全面での不安がある為、営繕の職員が常に園内を巡回し、早急な対応をしている。教職員一同綿密に連携をとり、園児の安全に努めていく。
→営繕担当者と教員の連携も出来、安全に考慮することが出来た。
2. 平成30年度は、漏水など施設の修繕・改修に費やすことが多かった。どの工事も長期期間中にしか行えないため、今後も早い計画と依頼が必要と思われる。
→長期休暇、週末を利用し、施設・設備の改修、修繕を進めることができた。
3. 本館2階の、母の会ホールの、空調設備（エアコン）の設置を予定している。教会と相談の上、進めていきたい。
→教会の協力も受け、母の会ホールに2台、厨房に1台のエアコンの設置を行った

*2019年度の改修・修繕予定

- ①保育室の蛍光灯を、「飛散防止蛍光管」への交換を予定している。（全保育室）→完了した
- ②講堂の電気器具をLED器具への交換を予定している。（夏期休暇中）→完了した
- ③園児用トイレの改修を検討したい。（1～2箇所）→1箇所の改修が完了した
- ④1階保育室前のテラスのタイルが、何か所にもわたって隆起している。転倒者もでたこともあり、部分補修をしていきたい。→部分的には補修したが、今後もその都度補修していきたい

その他

1. 2019年度、創立70周年を迎えるにあたり、何か保育の中で園児と共に祝える、行事などを考えたいと思う。
→70周年は行わなかったため、75周年に向けて、早目に考えていきたい
2. 平成30年度より、各学年30分の保育時間延長になった為、昨年度末に教員の保育後の教員の働き方について話し合い、一年間実行してきた。今年度最後に「振り返りの話し合い」をする時間をもち、反省点や今後の幼稚園の在り方について、意見を交わすことができた。2019年度以降も続けていきたい。
→年度中の振り返りとして話し合いを持つことができ、保護者の声にも耳を傾けながら次年度の計画に役立てた。年度末の振り返りは新型コロナウイルス感染症の影響で実施できなかった
3. 2019年度10月より、幼児教育無償化に伴い、文部科学省から通達が出ているように、幼児教育現場の質の向上、教員の意識の向上に努めるように促していきたい。
→日々の保育を継続しながら、教員個々の意識、質の向上に頼るにとどまった

II. 財務関係予算方針

[基本方針]

1. 園舎建替えが延期になったが、講堂の耐震性も含め、診断、改修など、本部と連携して注視したい。
→引き続き、耐震工事と建替え、両方の計画を継続中
また、引き続きオリンピック後の建替えに向けて、今後の幼稚園の運営の在り方についても熟考し、サレジオ会、修道会共連携し計画を作成していきたい。
2. 着工： 未定（2020年オリンピック後）
3. 工事期間：未定
4. 総建築費：未定

地方公共団体補助金

東京都補助金、預かり保育補助金ともに、前年度より増額を計上する。

経費の削減

1. 消耗品の購入について、まとめ買い、使用方法などを見直し、経費節減に努める。
→アスクルの代理店を変え、10%割引サービスを利用した
2. 廃棄物、廃材の処理の方法を無駄のないよう考えていきたい。
→倉庫や園舎脇にあった不要物の処理を行い、整理され清潔にもなった

⑥ 足立サレジオ幼稚園

I. 教育目標

1. 昨年度までと同様に、サレジオ会の事業として、ドン・ボスコの教育法の3本柱である「宗教・愛情・納得」の実践に励む
 - ① 宗教、道徳に力を入れる（こころに語りかける教育）
 - 週一回火曜日に教会で子どもたちに宗教的な話をした。職員に対しては、朝礼において宗教的、聖書的訓話を実施した
 - ② 常に子どもに寄り添い、愛情に満ちた指導をする
 - 日常保育の中で、職員たちが丁寧に実施した
 - ③ 納得の得られないままでの指導はしない（納得に基づく指導）
 - 子ども同士のトラブル時に子どもの気持ち、話を辛抱強く聞いてお互いが納得して終わるようにした

2. 教職員の資質の向上を目指し、保育内容の充実を図る
 - ① 全職員が建学の精神、教育目標を心に刻む
 - 朝礼、職員会議等で話し合った
 - ② 障がい児、あるいはその線上にいる子どもの指導法を研究し実践する
 - 梅田あけぼの診療所、子ども支援センターげんきなどと連携し、そのアドバイスをもとに子どもの指導に当たり、成果を得た
 - ③ 内外の研修会に積極的に参加する
 - ・ 園長による教職員向けの講話など、の実施を計画する
 - 朝礼などで実施したが十分ではなかった。外部の研修会には積極的に参加した
 - ④ 教職員の保育後の仕事内容を見直し、効率化を図る
 - ・ 仕事内容を明確化し、全職員で共有する
 - 夕方の打ち合わせ会で1日の業務を反省し、改善して行く仕組みができていて、良く実施されていた
 - ⑤ 行事内容
 - ・ 実施形態の見直しなどにより、保育内容の充実を図っていく
 - ・ お泊り保育は真夏に行われ、最近の気象状況に鑑み子どもにも職員にも負担が多いため、日中の行事とし、子どもが1日楽しめる行事に変更した（わくわくフェスタ）。
 - ・ 気象状況により、行事の実施の判断に迷うことがあった（夕涼み会、運動会）
 - ・ 台風など災害時の方針決定マニュアルを策定中（どの情報に基づいて判断し、同決定しいつどのように保護者に伝えるか等）

特別施策

- ① 預かり保育の実施 教育時間終了後 14:30～最長17:30まで
 - 予定通り行った
- ② 長期休暇中の預かり保育 春休み：5時間 夏休み：5時間 冬休み：5時間
 - 予定通り行った。あと1時間ほど長めにしたいとの意見があった
- ③ 未就園児クラス（ひよこ組）の実施日数を週5日（母子分離型2日×2クラス、親子参加：1日）とする

→実施には苦勞も多かったが、次年度の年少クラスの人数が30名を超え、成功した。次年度も実施したい

④ 0歳から2歳児親子参加対象のいちごクラブを月2回ほど実施する

→子ども、保護者との関係づくりに大いに役立った。幼稚園への意識を高めた

II 設備ならびに財務関係予算方針

1. 施設設備の充実

・新園舎使用開始から6年経過となり、建物全体の調整・修理が若干必要になってくる時期を迎える。
(木部構造、例えば窓枠・人工木使用デッキなどや職員室・保育室の吊戸枠の調整・修理など)

→従来より課題となっていた人工木デッキの補修は、会社側に強く要求し、木製デッキに改修してもらい、安全で見栄えも良く保護者にも安心してもらえた

→平成30年9月の台風により被害を受けていた雨どいは施工方法の不具合により雨天時に脱落してしまった。火災保険の適用を受けて新しく全面的に改修した

→園舎内部のいくつかの不具合を調整してもらった(吊戸・鍵)子ども用トイレの扉の改修、塗装なおし、外部木部の塗装等

→舞台音響工事：マイクの音が途切れるなど使い勝手が不安だったので、ワイヤレスマイクの周波数調整・アンテナの設置により改善し、行事实施上の職員の負担が減った

→2階トイレの外のシャッターが故障したので修理した

・ばら組の園児机が古くなっているため、新たに6台購入予定。東京都の環境整備費補助金等を使って購入したいと考えている

→机を予定通り購入した

・砂場の屋根が台風被害によって破損してしまっている状態。新たな屋根の設置と同時に課題となっている屋根の汚れについて対策を講じて修繕していく

→春休みに実施予定であったが、最初にお願した会社の見積もりがあまりにも高かったため、見積もり合わせを行い、次年度に改修することになった

・園舎(園庭)南西側の住宅地との境界に古くなったブロック塀があるが、建築場所が幼稚園内でないため、また固定資産上計上されていないことから、幼稚園所有の構築物ではないと考えられる。住居の一部では空き家になっていることもあり、取り壊しの依頼も難しい状況。新たに幼稚園側に強固な壁を建設する等、万が一に備えた対策を講じる必要がある。それに伴いプール置き場が無くなるため、プール収納小屋を購入する必要がある

→ブロックとアルミフェンスを設置した。プール資材はすでにある物置小屋を整理し半分を収納、あと半分はシートをかぶせてフェンスそばに置いた。砂場のおもちゃ置き場の小屋も取り壊し、新しくした

・数年の計画として、防犯のため門扉施錠もしくは改修を検討中

→今年度は未実施

2. 教職員の資質向上

① 教職員は少なくとも年1回は外部の教育研修に出席する

→園長研修、学研研修、日本カトリック幼児教育連盟主催研修(倉敷市)、ほかに希望する研修に参加した

② サレジオ会学校連合会主催の新任の研修に出席する

→本園度は参加しなかった

③ 教員免許の更新を控えている教員の研修参加

→ 1名が参加し、更新を終えた

④ 教職員養成講座とドン・ボスコ保育園で実施するドン・ボスコ研修に出席する

→ 教職員養成講座には複数名が複数回参加した。ドン・ボスコ保育園の研修には参加者なかった

3. その他

・ 教育経営の評価の実施と報告書の作成、反省

保育参観の実施

→ 給食参観、英語参観、体操参観、通常保育参観など実施した

外部評価の実施

→ 本年度未実施 来年度に向けて実施の方向で準備中

監事監査の実施

→ 実施した

内部監査の実施

→ 実施した

・ 園児募集のための未就園児クラス（ひよこ組といちご）の充実と広報活動

→ 動画“足立サレジオ幼稚園のねがい”を日向学院中学校の先生の協力で作成した。何人かの保護者にも見てもらい好評であったので、次年度の広報活動に活用したい

・ サレジオ会青少年司牧プロジェクトチームの現場訪問がありその報告書を受け取った

⑦ 町田サレジオ幼稚園

I. 教育目標

南多摩の自然に囲まれた明るい雰囲気の中で、のびのびと活動することで明るい心、おもいやりのある親切な心、素直で正直な心を育てる。

1. 隣接する小山内裏公園に行き、自然に触れる機会を増やす
2. 年少、年中、年長の3学年が揃い、学年間の交流を持つことで人間性の成長をはかる
3. 発達が遅く、ケアの必要な数名の園児への対応とその他の園児のケアのバランスを考え、サポート体制を整える

※ 2については昨年度実施された学年縦割りでの昼食やグループ活動をさらに増やす。また3については必要に応じて、年度の途中からでもパート教職員にサポートしてもらうことを検討する

なお、サポートの必要な園児については専門機関（島田療育センター、町田市すみれ教室、相模原市発達支援センター 相模原市協同病院など）との連携を取りながら教育を行う

特に3については加配対象児5名、発達相談通級児9名、合計14名が専門機関とのかかわり、連携して保育をすすめている。年間予定にある年2回の個人面談のほかに降園時や個別に日時を設けて保護者とも連携を深め、困難な子どもへの対応に各担任が努め園長がサポートし保護者との信頼関係が構築できるよう努めた

経営会議の決定を受け保護者全員にアンケートの実施が試みられた。多種多様のご意見の中でお褒めの言葉も多々あり職員の励みになった。忌憚のないストレートな要望や依頼もあり謙虚に受け止める。その中でも今後の園運営に参考になる事案もあり次年度の計画に取り入れ可能なものは実践していく

—募集に関して—

定員60名を確保することを目標に今年度の園児募集の活動を展開する。本園の教育の信頼度、知名度を上げるための具体的な広報活動を行う。2018年度の反省から周囲の幼稚園の情報、地域の情報、在園する園児の父母たちからの情報を収集することで、本園の運営方法を地域に合ったものに変更していく。また昨年度のように園庭解放を行う。未就園児はプレクラスとしてののこぼと組週2回のクラスを2クラス例年通り行い、カンガルー広場（親子教室）は今まで月曜日のみの週1回であったが週3回に増やす。未就園児の保育、また子育ての支援としていろいろなバリエーションをもたらした教室を開き未就園児の人数の増加に取り組む。

3歳入園児は34名とまだまだ60名の定員には程遠いが、次年度は全園児95名(今年度76名)となり微々たる数ではあるが増加の傾向が見られるので、5年を過ぎた次年度の募集が特に重要である。

<園児募集につながる子育て支援の充実>

① バリエーション豊富な子育て支援

0歳児から在園児、卒園児（兄姉）をも含めた幅広い子育て支援の実施

② 園児募集に直結するプレスクールの充実とともに子育ての相談に随時応じ信頼関係を作る

③ 園庭開放、保育への参加、保育室開放等を毎月切れ目なく行い、なおかつプレスクール以外の無料で実施している活動に関しては町田市子ども生活部子育て推進課が毎月発行している町田市子育てひろばカレンダーに昨年度同様記載を依頼する（町田市公式ホームページにもリンクしている）

④ 在園児には預かり保育の拡充

早朝保育の開始（保育開始前 8：00 から 9：00 まで）

長期休み中の預かり保育の日数の増加（年間夏冬春合計 43 日実施予定）と預かり時間の延長（8：00～18：00 まで）

⑤ 地域のイベントに可能な限り協力し、本園の認識を広めるとともに積極的に会議に出向き、情報に収集に努める

未就園児の活動は前年度よりさらに活性化できたと思う。特にこばと組については母子分離、週 2 回が定着し担当も 4 年目を迎え安定し保護者からの信頼も厚い。昨年度よりはじめたエンジェルクラスが毎回多くの参加があり最終まで親子で楽しめたと言葉をいただいている。

エンジェル会員の 17 名がこばと組に申し込み昨年暮れで定員が満たされている。次年度はこばとと同じ年齢で新たな教室を開設し更に募集へとつなげていくように努める。

上記スケジュールは大型台風でエンジェル組が 1 日取りやめになったほかは予定通り実施。

特に 5 月、6 月の保育体験は説明会も含めて早めに取り組めたことが募集にもつながったと思われる次年度も同時期の土曜日に実施する。

—教員の養成—

サレジオ会員を除く専任教諭 8 名のうち、4 名がカトリックの信者という状況から、昨年度から実施している教職員要理を継続し、その回数を増やす。これを通してカトリック・ミッションスクールへの理解を深める。また、新規採用者 1 名はサレジオファミリー研修に年間を通して参加する。複数クラスの学年については経験者がイニシアチブを取り、園長、主任の助言の下、新任および経験の浅い教員を育成する。さまざまな教育機関（全国カトリック幼稚園連盟、私学財団研修、東京都私立幼稚園協会研修、町田私立幼稚園連盟等）が開催する幼稚園教諭の研修会に積極的に参加し、現場に学んだことを活かす。

Ⅱ. 財務関係予算方針

・施設関係

建物の改修については、床下の水の対策、デッキの不具合の修理、蛍光灯の計画的な取り換え等

・備品調達

開園してようやく 4 年が経過したに過ぎ、大型の遊具の購入の予定はないが必要に応じて優先順位を決めて購入していく。

昨年夏に床下の水対策でホール横、駐車場横に溜枳の設置。

デッキの張替えを行った。デッキについては素材の問題があるのかひび割れ、盛り上がりなどが生じている。次年度対策を講じる必要性あり。

・広報関係

開園して 4 年経過したが、まだまだ認知度を上げることが必要である。引き続き特に八王子を重点に広報計画を展開することで本園の存在を広く伝える。

広報担当のイニシアチブにより経営会議の了承を得て、ホームページの刷新、南大沢駅広告、照明付園看板の設置、園正面看板の照明設置等、を行った。

特に園看板は大きくどこの方向から見ても目立ち、夜は照明も明るく保護者からも評判が良い。

名 称	対 象 (年齢)	申 込	参加費	内 容	活動日
カンガルー ひろば	0歳から2歳まで	不要	無料	保育室開放、乳幼児親子の自由遊び	毎週火木金3日間 午前10:00から11:30
季節の手形 足形アート	0歳から2歳まで	必要 (各回定員12組)	材料費 500円	講師の先生と楽しくアートに挑戦	4月・7月・10月・1月 年4回活動日詳細後日
コアラの日	2016/4/2～2015/4/1 生	必要 (各回定員15組)	無料	幼稚園の先生と遊びましょう	5/25, 6/29 午前9:30から11:00まで
こぼとクラ ス	2016/4/2～2017/4/1 生	必要	募集案内をお読 みください	母子分離、お弁当あり、幼稚園生活に向 けたプログラムの週2日	5月7日より開始、火木、水金ク ラス
エンジェル クラブ HOWDEE	2017/4/2～2018/4/1 生	必要 2019年3月1 日(金)午前10時 より電話にて受付	募集案内をお読 みください	お母様の子育て応援のクラブ。一緒に幼 稚園で楽しく過ごしましょう。いろい ろな活動も体験できます。子育ての相談に も応じます。	5/20. 5/27. 6/10. 6/17. 6/24. 7/8. 7/22. 7/29. 8/26. 9/10. 9/30. 10/28. 11/6. 11/25. 12/9. 1/20. 2/10. 午前10:00から11:00まで
三世代土曜 ひろば	在園児・小学校6年生までの 在園児兄弟とその保護者(両 親、祖父母)地域のかたがた	不要	無料	講師やおじいちゃま、おばあちゃまと一 緒に、昔遊び(けん玉・コマ回しなど) で体を使って思いっきり遊びましょう。	年5回土曜日午前10:00から 11:30まで4/20, 7/6, 9/7. 11/8, 2/8
ベビーマッ サージ	生後3ヶ月から10ヶ月 ぐらい	必要(各回定員1 2組)実施月の初 日10時より電話 にて受付	オイル代 300円	ママと赤ちゃん一緒に癒しのひとときを 過ごしましょう。	5月・8・11月・2月
園庭開放	未就園児、在園児の弟妹	不要(雨天中止)	無料	在園児のおにいさん、おねえさんと一緒 に遊んで踊ってね。	5/10. 6/14. 7/4. 11 /29. 1/17. 2/21午前1 1:00から11:45まで